



2026年5月29日

各位

会社名 バリュークリエーション株式会社
代表者名 代表取締役社長 新谷 晃人
(コード：9238、東証グロース市場)
問合せ先 執行役員 経営企画部 和田 晃一
(TEL. 03-5468-6877)

財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備に関するお知らせ

当社は、金融商品取引法第24の4の4第1項に基づき、本日付で関東財務局長に提出いたしました第18期(2026年2月期)の内部統制報告書において、開示すべき重要な不備があり、当社の財務報告に係る内部統制は有効ではない旨を記載いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、第16期(2024年2月期)から第17期(2025年2月期)の内部統制報告書についても、同様の理由にて内部統制報告書の訂正報告書を提出しております。

記

1. 開示すべき重要な不備

当社は、KDDI株式会社の子会社である、ジー・プラン株式会社(以下「GP社」といいます。)の元従業員(以下「某氏」といいます。)が主導した架空循環取引(以下「本件GP取引」といいます。)の商流の一部に当社が含まれていることを受け、当社と利害関係を有しない外部専門家(弁護士及び公認会計士)で構成される特別調査委員会を設置し、調査を実施いたしました。

その結果、本件GP取引の商流において、当社は、GP社と下流取引先の間に入る仲介取引をする役割として巻き込まれていたこと、及び、当社担当者は架空循環取引であることについて某氏と共謀した事実はなく、また、本件取引が実体のない取引であることについての認識があったとも認められなかったことが確認されました。

当社は本特別調査委員会の調査結果を踏まえ、実在性を確認できなかった本件GP取引について、売上高等の過年度の修正を行うとともに、過年度の財務諸表を訂正しました。これらに伴い、有価証券届出書、第16期第3四半期から第18期第2四半期までの有価証券報告書、四半期報告書及び半期報告書について訂正報告書を提出いたしました。

本件GP取引において、当社における取引の実在性確認に係る統制が十分に機能しなかったという、仲介取引における売上及び外注費計上に関する業務プロセスの財務報告に係る内部統制の不備は、財務報告に重要な影響を及ぼしており、開示すべき重要な不備に該当すると判断いたしました。

2. 事業年度末までに是正できなかった理由

上記の財務報告に係る内部統制の開示すべき重要な不備が事業年度末までに是正されなかった理由は、当該事実が当事業年度末以降に判明したためです。

3. 開示すべき不備の是正方針

当社は、財務報告に係る内部統制の重要性を強く認識しており、特別調査委員会の提言を踏まえ、以下の再発防止策を実施してまいります。

- ・ 成果物開示要件の厳格化
- ・ 下流取引先に対する受注能力審査の制度化
- ・ 取引情報の組織的共有及び牽制機能の強化
- ・ 内部監査及びモニタリング機能の強化

4. 財務諸表及び財務諸表に与える影響

上記の開示すべき重要な不備に起因する必要な修正事項は、財務諸表において適切に反映しております。

5. 財務諸表の監査報告における監査意見

無限定適正意見であります。

以上